

社会福祉法人 聖マリア会

平成 30 年度 事業報告書

事業の実施状況

平成 12 年 4 月に社会全体で高齢者介護を支える仕組みとして創設された介護保険制度は、18 年を経過しました。介護サービスの利用者は、在宅サービスを中心に増加し、平成 12 年 4 月には 149 万人であったサービス利用者は平成 30 年 4 月で 474 万人と約 3.2 倍に増加し、高齢者の介護に無くてはならないものとして定着しています。

高齢化がさらに進展し、「団塊の世代」が 75 歳以上となる 2025 年には、約 5.5 人に 1 人が 75 歳以上となり、医療費・介護費が急増することが予想されます。

そこで、「2025 年問題」に備えるため平成 30 年度介護報酬改定では、①地域包括ケアシステムの推進、②自立支援・重度化防止の取り組みを強化し質の高いサービスの実現、③介護人材の確保を目指し生産性の向上、④介護サービスを適正化し介護保険制度の安定性・持続性を確保という 4 つの考え方を基本として、さまざまな制度変更や介護報酬改定、新施設の創設などが行われました。

平成 30 年度介護報酬改定率が全体としてプラス 0.54%と 6 年ぶりのプラス改定となりましたが、独立行政法人福祉医療機構の「平成 29 年度の特養の経営状況に関する調査結果」によると、赤字施設の割合は特養全体では 32.6%と依然厳しい経営状況が続いています。

また、高齢化が進む中、介護人材を確保することは重要な課題の一つですが、介護業界の人手不足は依然として深刻な現状です。

このような中、当法人の平成 30 年度決算は、各事業の利用率（特養 92.3%、ショートステイ 30.9%、デイサービス 55.2%）の低さが経営状況に影響し、約 400 万円の赤字決算となっていますが、築後 20 年を経過する建物、設備等の修繕費に約 450 万円、ケアハウスのボイラー設備更新等の建物取得に 345 万円、特養の全自動ガス乾燥機の更新等、器具及び備品取得に約 435 万円を投じ、利用者の生活環境等の改善に努めました。

社会福祉法人を取り巻く経営環境は年々厳しさを増す中、収益の確保と職員の確保の両立に毎年苦慮していますが、利用者サービスの一層の向上を図るべく各事業に取り組んでまいりましたので、その概要を次のとおり報告いたします。

1. 法人の概要

1. 法人名 社会福祉法人 聖マリア会
2. 所在地 愛媛県今治市上徳甲110番地1
3. 法人の事業
 - (1) 第一種社会福祉事業
 - (イ) 特別養護老人ホームの経営
 - (ロ) 軽費老人ホームの経営
 - (2) 第二種社会福祉事業
 - (イ) 老人デイサービス事業の経営
 - (ロ) 老人短期入所事業の経営
 - (3) 公益事業
 - (イ) 居宅介護支援事業
 - (ロ) 要介護認定申請にかかる訪問調査の受託

2. 役員等の状況

1. 構成（平成31年3月31日現在）

理事 定数 6名以上11名以内（現員10名）

監事 定数 2名以内（現員2名）

評議員 定数 7名以上12名以内（現員6名）

※ただし、平成32年3月31日までは4名以上

3. 平成30年度理事会開催状況

開催年月日 出席人数	議案	
平成30年06月06日 理事 09名 監事 02名	議案	第1号 社会福祉法人聖マリア会平成29年度事業報告について 第2号 社会福祉法人聖マリア会平成29年度決算について 第3号 社会福祉法人聖マリア会定時評議員会の開催について
	報告	①専決事項報告
平成31年03月25日 理事 10名 監事 02名	議案	第1号 社会福祉法人聖マリア会平成30年度補正予算について 第2号 社会福祉法人聖マリア会2019年度事業計画について 第3号 社会福祉法人聖マリア会2019年度予算について 第4号 社会福祉法人聖マリア会役員及び評議員の報酬等に関する規程の一部改正について 第5号 社会福祉法人聖マリア会経理規程の一部改正について 第6号 社会福祉法人聖マリア会職員就業規則の一部改正について
	報告	①専決事項報告 ②平成30年度指導監査報告 ③居宅介護支援事業の休止について

4. 平成30年度評議員会開催状況

開催年月日 出席人数	議案	
平成30年06月26日 評議員 6名 出席理事 1名	議案	第1号 社会福祉法人聖マリア会平成29年度事業報告について 第2号 社会福祉法人聖マリア会平成29年度決算について

5. 特別養護老人ホームみどりの郷

特別養護老人ホームみどりの郷の平成30年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。(詳細な数字は末尾に表示)

1. 平成30年度稼働目標 定員56名に対して、稼働率94%

【実績】

- ・稼働率94%の目標に対して、92.3%と達成できなかった

2. 平成30年度重点項目

全体の接遇マナーを向上させ礼儀正しく、思いやりのある援助を行います。

また利用者が尊厳を保ち、安心して暮らし続けられるよう自立支援サービスを行い、個別ケアを推進します。

【実績】

- ・接遇マナーを向上させ思いやりのある援助を実践し、利用者の安心した生活に繋げることができた
- ・接遇冊子を作成して全職員が共通の意識をもって処遇にあたった

3. 主な事業

1 強化1

① 利用者ごとの意思や意欲に沿い、生きがいのある生活の支援

- ・コミュニケーション能力を向上させ信頼関係を築きます
- ・専門性の高い知識と技術をもって相手が望むサービスを行います

【実績】

- ・あいさつに一言を添えてコミュニケーションを行うことによって、利用者の細かな精神状況や体調の変化に気づき安定した生活援助を行った
- ・利用者の意欲や意思に沿った外出を多く取り入れ、生きがいづくりに努めた(ブドウ狩り、買い物など)

② 褥瘡をつくらない援助

- ・移乗技術を向上させ持ち上げない介護を実践します
- ・ポジショニング技術を向上させ褥瘡予防を実践します

【実績】

- ・持ち上げない介護やポジショニング技術を向上し、利用者にも職員にも負担の少ない援助を行った
- ・現在褥瘡のある入所者はおらず、今後も予防と早期対応を継続する

③ 高齢者の虐待を発生させない体制と身体拘束を行わない生活援助

- ・虐待に至る「不適切な対応」の改善を行い思いやりのある援助を行います

【実績】

- ・外部研修の参加や内部研修を積極的に行い、虐待を発生させない体制を強化した

- ・虐待や身体拘束につながる苦情はなかった
- ・今後も家族との信頼を損なわないよう意見交換や情報共有を行っていく

1 継 続 1

① 衛生的で楽しみのある食事の提供

【実績】

- ・定期的に行事食やバイキングを行い楽しみのある食事を提供した
- ・ホットケーキやアイスクリームなど楽しめるおやつを提供にも工夫をした

② 災害や防犯にも対応できる安全対策及び環境整備

【実績】

- ・防犯カメラを増設し安全対策を強化した

③ 感染対策及び食中毒の予防

【発生状況】

感染性胃腸炎 職員 8 名 入所者 24 名

インフルエンザ 職員 6 名 入所者 06 名

- ・面会制限、個室対応、タミフル予防投与などの早期対応を行ったが施設内で感染を拡大させてしまった
- ・行政や医療機関や家族と情報共有し早期に感染症鎮静にむけて行動した

④ 早期対応と再発防止による介護事故の防止

【発生状況】

入院を伴う事故 転倒 4 件 誤嚥 1 件

- ・直ちに行政や家族への状況報告を行い、早期対応と再発防止に努めた
- ・事故による家族からの苦情はなかった

(1) 定員 56名 平成31年3月31日現在
個室 12、4人部屋 11

(2) 入所者 56名 男性 16名
女性 40名

(3) 入所者年齢

	69歳以下	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男性	1	6	7	2	0	16
女性	1	8	19	11	1	40
計	2	14	26	13	1	56

	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	65歳	193歳	80.1歳
女性	66歳	100歳	85.5歳
計	65歳	100歳	83.9歳

(4) 年度別利用状況

年度	日数	延利用日数	1日当人員	利用率	備考
30	365	18,879	51.72	92.3	
29	365	18,709	51.26	91.5	
28	365	18,111	49.62	88.6	

(5) 入退所状況（平成30年4月1日～31年3月31日）

- 入所者 13名 入所前居所（自宅2名、老健3名、病院6名、グループホーム2名）
- 退所者 13名 退所理由（長期入院8名、死亡5名）

(6) 現入所者の入所年度

16～18年度	19～21年度	22～24年度	25～27年度	28年度	29年度	30年度	計
2名	3名	4名	12名	6名	16名	13名	56名

(7) 現入所者の平均在所日数

- 30年度 1,166日（3年01月）
- 29年度 1,152日（3年01月）
- 28年度 1,170日（3年01月）

(8) 入所者の年間平均介護度

- 30年度 4.25
- 29年度 4.25
- 28年度 4.30

(9) 特例措置による入所状況 なし

(10) 入所待機者 355名（他施設との重複含む）

(11) 入所検討委員会開催

年4回（4月、7月、10月、1月）

6. 短期入所（ショートステイ）事業

ショートステイみどりの郷の平成30年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

1. 平成30年度稼働目標 定員13名に対して、稼働率50%

【実績】

- ・稼働率50%の目標に対して、30.9%と達成できなかった
- ・夏季の風邪蔓延や冬季のインフルエンザ発症、嘔吐下痢蔓延に伴い、利用予定者にキャンセルしていただいたことが一因でもある
- ・2階の利用可能ベッド数が10床あるが、そのうち4床で見守りなど十分な対応ができない状況であり、居室の条件が合わないことも多くあった

2. 平成30年度重点項目

在宅で生活される利用者・家族の方が安心して利用できるよう、他機関及び家族と情報を共有し、意思や意向に沿った柔軟なサービスの提供により、家族介護の負担軽減に努めます。

【実績】

- ・契約時のアセスメントや担当者会議に、心身の状況確認と利用者や家族の思いや意向を聴き、可能な援助を話し合っている
- ・利用時の状況を文書及び必要に応じて送迎時や電話にて報告し、担当ケアマネジャーとも情報を共有している
- ・突発的な利用要望にも柔軟に対応することに努めた

3. 主な事業

① 利用者の心身の状態に応じた日常生活の援助

【実績】

- ・定期の利用者は当日、不定期でしばらく利用がなかった利用者には前もって身体状況の確認を行い、必要な援助情報をスタッフと共有してきた
- ・利用中不慣れな集団生活での疎外感を感じないように、ショート係が中心となり心身への対応を意識して行った

② 認知症ケアの充実強化、思いやりと尊厳のある援助

【実績】

- ・接遇マナーと思いやりのある援助の取り組みにより、尊厳のある援助の大切さを学んでおり、徐々に利用者の満足度も向上している

③ 早期対応と再発防止による介護事故の防止

【実績】

- ・利用者のベッド周辺環境と身体状況に合わせた安全な動線には十分に気を付けて整備し、常に確認している
- ・予想される事故に関しても利用毎に何度もスタッフ間で申し送りを行う
- ・家族に対しても思わぬ事故がありうることを理解していただき、日頃から情報の共有を行い、信頼関係を築こうと努力している
- ・発生した事故に関しては、上司と相談し迅速な対応を行っている

④ 感染症対策及び食中毒の予防

【実績】

- ・感染委員会を中心に、感染症の基礎知識と発生時の対応の実践をユニット会や全体会にて周知に努めている

⑤ 在宅生活を継続するための機能維持活用

【実績】

- ・施設環境と住宅環境の違いを利用者とその家族に理解していただき、日常生活上での機能の活用内容を確認していただいた上で、スタッフに申し送り必要な援助に取り組んだ

(1) 定員 13名（予防型含む）

(2) 年度別利用状況

年度	日数	実利用人員	延利用日数	1日当人員	利用率	備考
30	365	262 (3)	1,470 (9)	4.03	30.9	1人当平均利用日数 5.61日
29	365	291 (1)	1,576 (2)	4.32	33.2	5.42日
28	365	330 (3)	1,750 (11)	4.79	36.9	5.30日

() 内は介護予防分を再掲

(3) 利用者の年間平均介護度

30年度	3.31
29年度	3.34
28年度	3.43

7. 地域密着型通所介護（デイサービス）事業

デイサービスセンターみどりの郷（地域密着型）の平成30年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

1. 平成30年度稼働目標 定員18名に対して、稼働率70%

【実績】

- ・稼働率70%の目標に対して、62.5%と達成できなかった
- ・複数回利用されている利用者の利用終了が多くあり、今後新規利用者獲得に努めたい

2. 平成30年度重点項目

介護の基本は在宅生活という観点に立ち、重度な要介護状態となっても可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるよう利用者の在宅生活を支援します。利用者の声に耳を傾け、「個」を大切にしながら自己実現と在宅での安定した生活の維持を目指します。他事業所に対するアピールや連携強化により、より一層の利用者確保に努めます。

【実績】

- ・体験利用できることを各居宅介護支援事業所等にPRし、利用に繋がられるように図った
- ・デイサービスセンターみどりの郷だよりを活用した

3. 主な事業

① 利用者の心身状況の変化の早期把握・対応（家族や各事業所との情報共有）

【実績】

- ・利用者の家族とは送迎時に情報交換し、各居宅介護支援事業所にも少なくとも月1回は状況報告し、早期把握・対応に努めた

② 利用者が楽しみを持って参加できるレクリエーション活動や施設外活動の実施

【実績】

- ・個別外出レクを実施した

③ 職員間の共通認識の強化による事故・感染症防止

【発生状況】

- ・感染症発生時期には早めに対応策を実施し、インフルエンザなどの感染者は発生しなかった

④ 楽しみながら食事できるための食事内容の改善、行事食の実施

【実績】

- ・毎月2回以上の行事食を実施した

⑤ 利用者寄り添った思いやりのある接遇の実践

【実績】

- ・毎月職員会で接遇に対する時間を設け、職員への周知徹底に努めた

8. 認知症対応型通所介護（デイサービス）事業

デイサービスセンターみどりの郷（認知症対応型）の平成30年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

1. 平成30年度稼働目標 定員12名に対して、稼働率60%

【実績】

- ・稼働率60%の目標に対し、44.2%と達成できなかった
- ・重度認知症の方に施設入所が相次ぎ、空き状況を市内の居宅介護支援事業所にお伝えするなどを行ったが、新規獲得に至らなかった

2. 平成30年度重点項目

認知症を抱えている利用者が有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう支援し、在宅生活の維持と介護者の介護負担軽減を目指します。また、地域や他事業所との連携を強化し、利用者増を図ります。

【実績】

- ・利用回数を増やす提案や臨時利用の受け入れ等、ショートステイと調整して利用者が在宅生活を継続できるように努めた
- ・居宅介護支援事業所等に、利用者の状況や空き状況などを随時報告して連携強化を図った

3. 主な事業

1強化1

① 利用者の立場に立ったよりよい介護サービスの提供

【実績】

- ・利用者が精神的に安定して過ごせるよう声掛けや傾聴に重点を置いた介護サービスの提供に努めた

② 日常生活支援に向けた個別ケアの充実

【実績】

- ・センター方式を使用しアセスメントを徹底することで、利用者に合った生活リハや個別レクを提供した

1継続1

① 利用者が安心して過ごせるような環境及びケアの提供

【実績】

- ・接遇マナーを毎月職員会で勉強して、安心して過ごせるケアについて職員全体で周知できるよう努めた

② 施設内における衛生管理の徹底・感染症の予防

【発生状況】

- ・感染症発生時期には対応策を実施して、利用者の感染はみられなかった

③ 家族や他サービス事業所との連携による在宅生活維持の支援

【実績】

- ・利用中の様子や再アセスメントの内容、家族からの相談や連絡を随時ケアマネジャーに報告相談して、在宅生活が継続できるよう努めた

- (1) 定員
- ア. 地域密着型 18名
 - イ. 通所型サービス 地域密着型の定員内
 - ウ. 認知症対応型 12名

(2) 営業日・サービス提供時間

- 1週間の営業日数 5日（月～金曜日）
- 1日のサービス提供時間
 - ア. 地域密着型 5～6時間
 - イ. 認知症対応型 7～8時間

(3) 年度別利用状況

区分 年度	(日) 開所日数	地域密着型		通所型サービス		認知症型		計		(人) 1日平均	利用率
		実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員		
30年度	255	234	2,284	196	588	135	1,353	465	4,225	16.6	55.2
29年度	255	237	2,184	134	839	144	1,242	515	4,265	16.7	55.8
28年度	256	254	2,386	134	815	141	1,238	529	4,439	17.3	57.8

(4) 利用者の年間平均介護度

区分	地域密着型	認知症対応型
30年度	1.70	3.21
29年度	1.66	3.37
28年度	1.63	3.58

(5) 配食サービス事業

今治市よりの受託事業 月～金（昼食）

- 30年度 708食
- 29年度 558食
- 28年度 838食

9. ケアハウス事業

ケアハウスせせらぎの平成30年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。(詳細な数字は末尾に表示)

1. 平成30年度稼働目標 部屋数26に対して、稼働率80%

【実績】

- ・稼働率80%の目標に対して、部屋数の稼働率は80.3%と目標に達することができた

2. 平成30年度重点項目

入所者の高齢化や要介護者の増加に対し、できる限りケアハウスでの生活が持続できるように、適切な個別援助を実施します。また、接遇の正しい知識を身に付け、入所者が居心地良く過ごせる環境の提供に努めます。

【実績】

- ・身体機能が低下傾向にある入所者には、ヘルパー介助で入浴を勧めたり、食堂の座席を変更する等のニーズに対して適切に対応することができた
- ・また接遇については施設全体で取り組み、入所者やその家族及び外部の関係者に対して、正しい接遇で対応することができた

3. 主な事業

1強 化1

① 入所者同士の対人関係の維持・向上

- ・コミュニケーションを図れる環境を提供します
- ・良好な関係を築く為の観察や援助(助言等)を行います

【現況】

- ・茶話会や外食ツアー等のコミュニケーションを図れる環境を提供したが、同じ参加者が多く、全体の人間関係改善には至らなかった
- ・利用者に対する観察や援助は常時行ったが、入所者同士の溝が埋まっていない

② 入所者の健康状態や認知状態、身体機能状態など、レベルに応じたサービスの提供

- ・日々の健康管理に注意し、施設サービス計画に沿って個別援助を実施します
- ・在宅サービスの利用時等、他部署との連携を密に行います

【実績】

- ・食事チェックや体重測定、血圧測定を実施し健康管理を行った
- ・異常時は利用者やその家族に報告し、病院受診を勧める等迅速な対応を行った
- ・施設サービス計画は利用者のニーズに対して計画的に行った

③ 入所者の確保（空き部屋の減少）

- ・木原病院や老人保健施設さくら苑等と連携を図り、情報の交換を行います
- ・地域包括支援センターや居宅介護支援事業所へアピールを行います

【実績】

- ・木原病院やさくら苑と連携を図り、ケアハウスへの入所契約も行うことができた
- ・地域包括支援センターや市内の居宅介護支援事業所に空き状況を報告し、入所希望者を紹介していただくことができた

1 継 続 1

① 行政機関への手続きなど社会生活上の便宜の供与

【実績】

- ・希望に沿って対応することができた

② 入所者が満足できる充実した食事の提供

【実績】

- ・入所者の意見も取り入れて、行事食の充実を図った

③ 地域との関わり強化（富田総ぐるみ子どもまもり隊）

【実績】

- ・毎月の見守り巡視活動や富田小学校の行事、まもり隊定例会議に参加し、地域との関わりを深めることができた

(1) 定 員 30名 (1人部屋 22、2人部屋 4)

(2) 入居者 20名 男性 3名 女性 17名
 単身者 20名 夫婦 0名

(3) 現入居者の入居年度

10~12年度	16~18年度	19~21年度	22~24年度	25~27年度	28年度	29年度	30年度	計
1名	1名	1名	1名	5名	4名	4名	3名	20名

(4) 入居者の年齢

	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90歳以上	計
男性	1	0	2	0	3
女性	0	6	6	5	17

	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	69歳	88歳	80.7歳
女性	74歳	95歳	84.0歳
計	69歳	95歳	83.5歳

(5) 入退居者の状況（平成30年4月1日～31年3月31日）

入居者	3名	入居前の居所	(自宅	3名)	
退居者	5名	退居理由	死亡	2名	}
			転居	1名	
			老健	1名	

(6) 現入居者の平均在所日数

30年度	1,602日	(4年04月)
29年度	1,474日	(4年00月)
28年度	1,445日	(3年11月)

(7) 入居者の要介護度状況

未認定者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
3名	7名	1名	5名	4名	—	—	—	20名

10. 居宅介護支援事業

指定居宅介護支援事業所みどりの郷の平成30年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。(詳細な数字は末尾に表示)

1. 平成30年度重点項目

住み慣れた地域で安心して在宅生活が維持できるよう、相談援助や介護予防も含めた居宅介護支援計画の作成を行います。

【実績】

- ・認知症等により独居生活の継続に不安や心配を抱えた利用者には施設入所を提案し、それ以外は在宅生活の継続ができるように支援した

2. 主な事業

- ① 適切なアセスメントを行い利用者のニーズを把握すると共に、介護者の健康状態にも配慮したサービス計画の提案を行う

【実績】

- ・家族や利用者の体調に合わせて、ショートステイでの受け入れを行った

- ② 今治市の委託に基づき、公平な調査を行うと共に、知識を深めるために常に研鑽に努める

【実績】

- ・公平な認定調査を行うことに努めた

- ③ 各機関との連携を密にし、困難事例については、包括支援センターに相談し、助言や提案を受けて問題解決に努める

【実績】

- ・利用者に本人の望むサービスが受けられるよう援助を行った

- ④ 本人や家族の意思及び人格を尊重し、適切なサービスを多様な事業者から選択できるよう支援する

【実績】

- ・多様な事業者から各サービスを選択できるよう、利用者や家族に各サービス事業所の詳細な説明を行った

- ⑤ 併設事業所との連携を強化し安心とやすらぎのある生活を支援する

【実績】

- ・在宅生活の継続が困難になった利用者については、施設入所を支援した

(1) 居宅介護サービス計画作成件数

30年度	233件
29年度	337件
28年度	387件

(2) 介護予防計画作成受託件数

30年度	09件
29年度	12件
28年度	24件

(3) 介護認定調査件数

	施設分	在宅分	計
30年度	31	20	51
29年度	28	25	53
28年度	43	29	72